

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192500237		
法人名	社会福祉法人 苗場福祉会		
事業所名	グループホームひばりの空		
所在地	埼玉県所沢市三ヶ島5-1445-7		
自己評価作成日	令和6年11月25日	評価結果市町村受理日	令和7年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	東京都練馬区東大泉3-37-2-B		
訪問調査日	令和6年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、地域の関係機関と連携強化を継続できるようコロナウイルス感染症対策を講じたうえで運営推進会議の開催や地域行事へ参加しております。また、今年度も所沢市から認知症カフェの委託の継続や認知症サポーター養成講座を地域包括センターと共同で開催するなど社会資源としての役割を担えるよう取り組んでおります。

日々の生活においては、コロナウイルス感染症流行の中で限りがありますが、お客様の希望を叶えられるよう企画立案や、窓越しではございますがご親族との面会をしていただくなど大切な人との交流を継続できるよう支援を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●認知症の進行予防策を検討しており、ADLの状況把握に注力がなされています。特に水分量の摂取について意識しており、日々の摂取量の確認、飲みやすいものの提供など工夫に努めています。

●寄り添うケアの実践のため、看護師・栄養士など専門職を配置し、安全安心への環境づくりと理念実践がなされています。また安全対策のための装置を設置しており、利用者の見守りに関して環境設定がなされています。

●ケアプラン策定にあたっては、レビューを全職員に提示し、意見を募ったのちに作成がなされています。日常の変化や利用者の意向を計画作成に反映するための仕組みが構築されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入職員、中途職員入職時のオリエンテーションや研修で説明を行い周知している。また、部署目標から各職員がそれぞれ個人目標を設定し取り組んでおり、部署会議において進捗確認を行い実践につなげている。	理念・概要等はパンフレット・ホームページにて周知がなされている。寄り添うケアの実践のため、看護師・栄養士など専門職を配置し、安全安心への環境づくりと理念実践がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナウイルス感染症防止のため地域と合同で行えていないが、通常時は地域住民と消防訓練を行ったり、認知症カフェを開催してボランティアの方との交流を図っている。今後感染症の状況を注視しながら開催決定を行っていく予定。	お祭りへの参加など取り巻く環境を考慮しながら交流がなされている。行事のお知らせなど親睦を通して地域情報の収集にあたっている。	利用者の安全と健康を第一に考えた支援に努めている。コロナ禍より中断している認知症カフェの再開を検討対象としている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナウイルス感染拡大により開催を中止としているが、介護相談窓口を合わせた苗場カフェを開催している。認知症サポーター養成講座については地域包括と共同で開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染状況を見ながら2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、グループホームの利用状況、活動報告、事故報告を行い意見交換を行いサービスの質の向上に繋げている。	行政・地域包括支援センター・民生委員等が参加し、運営推進会議が開催されている。会議議事録は玄関前に掲示し、誰もが閲覧できる環境としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や所沢市GH管理者会議等を通し助言をいただき、協力関係の構築に努めている。	市内グループホーム管理者会議に参加しており、行政や他事業所との連携を通して待機者・困難事例・法改正など取り巻く環境や業界動向の共有にあたっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修及び勉強会において身体拘束をしないケアについて理解し実践している。また、マニュアルの読み合わせを行い3ヶ月に1度身体拘束適正委員会による会議を開催している。	併設の特別養護老人ホームと協働にて身体拘束の廃止に関して会議を開催している。支援の適正化等各種研修はオンライン動画サービスを活用するなど職員への配慮がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修及び勉強会において虐待防止や不適切ケアの視点について理解し実践している。また、不適切ケア報告書を活用し、毎月の部署会議において事例検討を行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されているお客様がいっぱいやるため、金銭管理、法律面での諸手続きを行えるよう連絡調整を行い疎通をはかっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不明点においてその場で尋ね、十分説明を行い同意を得ている。契約後も、不安や疑問点があれば随時連絡をいただくようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年顧客満足度アンケートを配布し、ご意見やご要望をいただき部署会議において改善策を立案している。集計結果はご家族様へ郵送でお知らせし、施設内にも閲覧できるように掲示している。	匿名による家族への満足度アンケートがなされ、結果はデータの図示により玄関前に掲示している。またコメントと写真付きの毎月の便りを家族等に送付し、現状の報告にあたっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部署会議において提案や意見交換の場を設け、日々の業務や支援に反映させている。	部署会議は、栄養・介護・看護の各観点より話し合いがなされており、議事録におさめられている。またサービスだけでなくマネジメント・財務の観点からも報告や分析がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	進捗確認及び上期、下期において個人目標を設定し評価を行い、給与に反映させている。また、ストレスチェックを行い職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月施設内研修や勉強会が行われている。希望に応じて外部研修の受講や、資格取得に向けての支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナウイルス感染拡大により中止しているが、併設する施設と合同でのイベント開催や、職員間で交流を持てる企画が開催されている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	モニタリング、アセスメントを行い要望を汲み取っている。また、職員からコミュニケーションを積極的に図り信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に、不安要素や要望を汲み取り、ニーズを引き出せるようコミュニケーションを図っている。入居後も、ご家族に日々の状況報告を行い信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療機関や他の専門機関の意見も参考に、サービスや支援方法を見極めている。また、定期的なモニタリングを通してお客様の状態に応じてサービスの見直し、変更を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様が今できることを引き出し、それが継続できるよう支援し、コミュニケーションを図り信頼関係の構築に努めている。日々の生活の中でお客様の意思を尊重し生活を送っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話での連絡、面会、毎月のお便りを通してご本人の近況報告を行っている。また、随時ご意向を伺っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣への散歩や、馴染みの方との電話連絡ができる機会を設けている。同事業所内の小規模多機能にいらっしゃるお客様と馴染みの方がいるため、希望があった際にはお連れし一緒に過ごすことができるよう支援している。	嗜好品の提供継続など入居前からの習慣に配慮している。また同建物内にある小規模多機能型居宅介護とは利用者同士が行き来をする関係性により入居後の馴染み形成にあたっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様の性格や特性を把握し、座席の配置を行っている。また、お客様同士交流が持てるよう日々のレクリエーションや毎月企画イベントも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援を行っている。電話連絡や面会に伺う等している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリング、アセスメントを通して、ご本人が実現していきたいことを汲み取りケアプランに反映させている。	利用者の拒否など意思を把握しながら日々の支援にあたっている。またケアプランの具体的支援を一覧にした計画実施表が設定されており、確認によりケアを進めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人及びご家族に聞き取りを行い、これまでの習慣やお好きなことなど情報収集を行い把握に努め、生活リズムや生活環境に配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	医療、看護とも連携を取り、日々の状態変化を観察、記録している。薬やケア方法に関して変更があった場合は情報共有し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、サービス内容についてご本人を交え検討している。状態変化があれば随時ご家族に連絡し、支援方法について見直し、変更を行っている。	ケアプラン策定にあたっては、レビューを全職員に提示し、意見を募ったのちに作成がなされている。日常の変化や利用者の意向を計画作成に反映するための仕組みが構築されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はケース記録に残している。また、職員間の申し送りノート、お客様情報の申し送りノートを活用し職員間で情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科や訪問マッサージ等、ご本人に必要な支援やサービスを提供できるよう他の専門機関と連携を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やイベント等に参加しているが、現在はコロナウイルス感染拡大により参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2度往診を受けている。かかりつけ医があるお客様は、継続して通院していただいている。	往診による受診体制が確立しており、利用者の健康管理がなされている。また看護師が配置されていることから、職員への指導を通して安全・衛生を意識した支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師が配置されているため、日々の状態を報告し、健康管理や医療面において相談し助言から適切な支援ができるよう対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者と密に連絡を取り合い、早期退院に向け情報交換や相談を行い関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化や終末期にはご家族、主治医と話し合いを行い、ご本人、ご家族の意思を尊重し今後の方針を決めている。	併設の特別養護老人ホーム等他サービスとの連携による将来を見据えた・多様な支援が特長といえる。連携とスケールメリットを地域からの信頼へとつなげるよう運営が継続されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職者は新人研修において、消防署開催の普通救命講習に参加している。また、緊急時対応マニュアルを活用し、全ての職員が緊急時に対応できるよう努めている。また、定期的な勉強会や研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災年間計画を立案し、定期的な避難訓練を実施している。現在はコロナウイルス感染症のためできていないが近隣住民を交えた防災訓練等行っている。	自然災害・火災を想定した避難訓練がホーム単独にて実施されている。被災時事業継続計画も作成されており、万一の事態に備えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やプライバシー保護について理解を深める勉強会や研修を実施している。不適切な言動があれば不適切ケア報告書に記入し、事例検討会を開催している。	接遇・高齢者虐待防止の研修およびマニュアル設置により研鑽がなされている。利用者との距離感を大切に日々の支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着たい服を選んでいただく、見たいものを見ていただくなどご本人の意思決定の場を設け、職員の判断だけにならないよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分、言動を観察し一人一人のペースに沿った支援ができるよう努めている。また、希望に沿うことができるよう意向の確認も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問理美容を実施し、ご希望のお客様に利用していただいている。入浴時には、下着や衣類をご自身で選択していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に合わせた食事形態で提供し、職員間で情報共有し安心して召し上がっていただけるよう努めている。また、食器拭きなどを手伝っていただいている。	管理栄養士によるBMIの管理、嗜好の確認などがなされ、食事提供への反映に努めている。ホットプレートの使用など皆で楽しむおやつづくりなどもなされている。	来年度より朝食の調理方法の変更を予定している。一定期間の実施ののち、利用者の喫食状況・職員負担等を検証し、より良い方策を分析していくことが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養管理において目標の設定を行っている。食事形態、食事・水分量等職員間で情報共有を行いながら一人一人の状態に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き及び義歯の洗浄を行っている。また、週に1回訪問歯科を利用し、口腔内の清潔を保ち必要なケア、治療を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、一人一人の排泄パターンを把握しその方にあったお声がけで定時トイレ誘導を行っている。排泄ケア用品はご本人の状況に合わせ随時見直しを行っている。	排せつ表により記録と確認がなされ、誘導など自立支援に努めている。水分摂取量の確保や医師への相談により、適切な排せつが維持されるよう	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の体操やレクリエーションで適度な運動を行っている。水分摂取量が少ない方は、その方が好む飲み物を提供し摂取を促している。また、歩行運動や腹部マッサージなど、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日は決めているが、入浴日や入浴方法、時間帯はその方の体調や状態を見ながら、ご本人の意向に沿って実施している。	入浴日の管理により清潔の保持がなされている。多様な声掛け・シャワーキャリーの利用など利用者一人ひとりにあわせた対応により実施がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度設定、管理を行っている。また、ご本人の意向に沿って休息時間を設けている。シーツ交換、居室内の清掃を行い清潔を保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の管理を行っている。薬情ファイルを作成、活用しいつでも職員が閲覧できるようにしている。また、薬の変更や用法、容量の変更時はお客様情報の申し送りノートに記載し、職員間で周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ等手伝っていただき、役割を持っていただいている。その方の生活背景から趣味などを日々の活動に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や外気浴等、ご本人の意向に沿った支援に努めている。外出レクに関しては、現在コロナウイルス感染拡大により自粛している。	受診・帰省など利用者の状況にそった外出支援に努めている。室内の行事とあわせて担当職員の企画により皆で楽しめる催しが実施されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等のトラブルを防ぐため、契約時に金銭の所持のないよう説明し納得していただいている。金銭所持の希望がある場合は、少額を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望に応じ、家族の方へ電話連絡ができるよう支援を行っている。また、職員がご家族へかけたり、ご家族からかかってきた際もご本人と代わって話すことができる時間を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内にはお客様が作成した創作品や塗り絵、職員がお客様と作成した季節を感じられる装飾品等が掲示されている。毎日掃除、常時換気、室温調整を行い過ごしやすい空間づくりに努めている。	利用者の制作物が廊下・リビングに飾られており、温かみのあるスペースとなっている。安全対策のための装置を設置しており、利用者の見守りに関して環境設定がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うお客様同士が同席し会話ができるような席の配置や、自由に過ごせる居場所づくりに努めている。また、居室で過ごす時間が長いお客様にはフロアへお誘いし、孤立しないよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた家具やテレビ、馴染みのある物など持参していただき自宅に近い形で過ごしていただき、安心した生活が送れるよう支援している。	テレビ、仏壇など馴染みの家具等が入居時に持ち込まれている。日中はリビングで皆にて過ごすことが多く、くつろぐ・休むなどに居室が利用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身で歩行できるよう動線の確保を行ったり、各居室や場所がすぐに分かり自身で向かえるよう名札やマークをつけることで、自立した生活が送れるよう努め環境整備を行っている。		

(別紙4(2))

事業所名：グループホームひばりの空

目標達成計画

作成日：令和6年12月30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	2	利用者の安全と健康を第一に考えた支援に努めている。コロナ禍より中断している認知症カフェの再開を検討対象としている。	感染症対策を講じた認知症カフェの再開。	・感染症対策として来場者は、検温と手指消毒後、入室として喫食時以外はマスク着用とする。 ・地域交流室への入場者数を8名に制限。14:00～15:00の開催時間を18:00までに延長し、少人数開催とする。	12ヶ月
2	40	来年度より朝食の調理方法の変更を予定している。一定期間の実施ののち、利用者の喫食状況・職員負担等を検証し、より良い方策を分析していくことが望まれる。	職員の業務負担を軽減し、お客様のサービスの質の向上を図る。	・お客様の喫食状況及び食事摂取量の確認。 ・朝食の調理方法を変更したことによる職員の負担を確認。 ・上記取り組み3カ月後に検証し、調理方法の見直し及び変更の必要があるか検討する。	6ヶ月
3					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。